

内視鏡的切除後の経過観察中に超音波内視鏡下穿刺吸引生検法(Endoscopic Ultrasound-guided Fine-Needle Aspiration : EUS-FNA)にて診断した粘膜内乳頭腺癌の分化型早期胃癌リンパ節転移の1例

柳井秀雄[†] 原野 恵¹⁾ 鶴 政俊²⁾ 南 麻梨子³⁾

IRYO Vol. 76 No. 3 (230-234) 2022

要 旨

超音波内視鏡下穿刺吸引生検(EUS-FNA)にて診断した粘膜内乳頭腺癌の分化型早期胃癌リンパ節転移の1例を経験した。乳頭腺癌は分化型の一部とされているが、内視鏡的切除にて内視鏡的根治度Aと判定された早期胃癌症例でリンパ節転移を経験したことから、乳頭腺癌の組織型の内視鏡的根治度A症例では内視鏡的根治度Bの場合と同様に、内視鏡検査に加えて腹部超音波検査、CT検査などで転移の有無を調べつつ経過観察を行うことが望ましいのではないかと考えられた。本症例の転移リンパ節の診断には、EUS-FNAが有用であった。

キーワード 早期胃癌, 乳頭腺癌, リンパ節転移, 内視鏡的切除, 超音波内視鏡下穿刺吸引生検

はじめに

近年、内視鏡的粘膜切除術(Endoscopic mucosal resection : EMR)や内視鏡的胃粘膜下層剥離術(Endoscopic submucosal dissection : ESD)などの内視鏡的切除術は、リンパ節転移リスクが非常に低いと推定される早期胃癌病変の一部に対する根治的治療法として、広く世界に普及している¹⁾。わが国の胃癌治療ガイドラインでは、早期胃癌病変の中でもリンパ節転移リスクが非常に低いと考えられる、

2 cm以下の肉眼的粘膜内癌(cT1a)、分化型癌、UL0(潰瘍性変化なし)と判断される病変を、EMR/ESDの絶対適応病変としている。ガイドラインでの分化型には、胃悪性上皮性腫瘍のうちpap(乳頭腺癌)、tub1(管状腺癌:高分化)、tub2(管状腺癌:中分化)が含まれる²⁾。しかし、この度われわれは、EMRにて切除した早期胃癌病変において、粘膜までの乳頭腺癌でありながらリンパ節転移を有していた一例を経験した。胃の乳頭腺癌は、分化型胃癌の一部として取り扱われているものの、手

国立病院機構関門医療センター 臨床研究部 1) 消化器内科 2) 血液内科 3) 倉敷中央病院 消化器内科 †医師
著者連絡先: 柳井秀雄 国立病院機構関門医療センター 臨床研究部
〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号
e-mail : yanai.hideo.mu@mail.hosp.go.jp
(2021年8月9日受付, 2022年2月25日受理)

A Case of Endoscopic Ultrasound-guided Fine-needle Aspiration-proven Lymph Node Metastasis of Endoscopically Resected Early Gastric Papillary Adenocarcinoma Limited to within the Mucosa
Hideo Yanai, Megumi Harano, Masatoshi Tsuru and Mariko Minami, Department of Clinical Research, NHO Kanmon Medical Center, Department of Clinical Research, 1) Department of Gastroenterology & Hepatology, 2) Department of Hematology, NHO Kanmon Medical Center, 3) Kurashiki Central Hospital
(Received Aug. 9, 2021, Accepted Feb. 25, 2022)

Key Words : early gastric cancer, endoscopic mucosal resection, endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration, lymph node metastasis, papillary adenocarcinoma